■事業の全体スケジュール

太郎右衛門自然再生地の望ましい姿

70年前の荒川旧流路において太郎右衛門自然再生地固有の豊かな生態系を育む湿地環境

A.自然再生の目標

現状の湿地環境の保全

Ⅰ　太郎右衛門自然再生地固有の多様な生き物を保全し、かつ、それらが生育・生息できる湿地環境を保全する。
〈近年確認されている希少種67種が生息可能な自然環境〉

過去に確認された生物が住める環境の再生

Ⅱ　過去に確認された当該地区の固有かつ多様な生き物が住めるような環境の再生を目指すものとする。
〈かつて確認されたが、近年確認されていない希少種6種の再生〉

荒川エコロジカル・ネットワーク

Ⅲ　荒川太郎右衛門自然再生地は周辺地域も含めたエコロジカル・ネットワークの核となる区域と位置付けるものとする。

多様な水深の開放水面

Ⅳ　湿地環境を保全・再生するにあたっては、荒川本川水、雨水、湧水等の自然な水を用い、多様な水深の開放水面を拡大するものとする。
〈昭和20年代以上の開放水面面積を段階的に確保〉

蛇行形状の保全

Ⅴ　約70年前の蛇行形状が今もなお変わらず残る、歴史的に貴重な荒川旧流路を保全し、後世に伝えるものとする。

治水面からもプラス

Ⅵ　将来にわたり治水の面からもプラスとなるような自然再生事業とする。

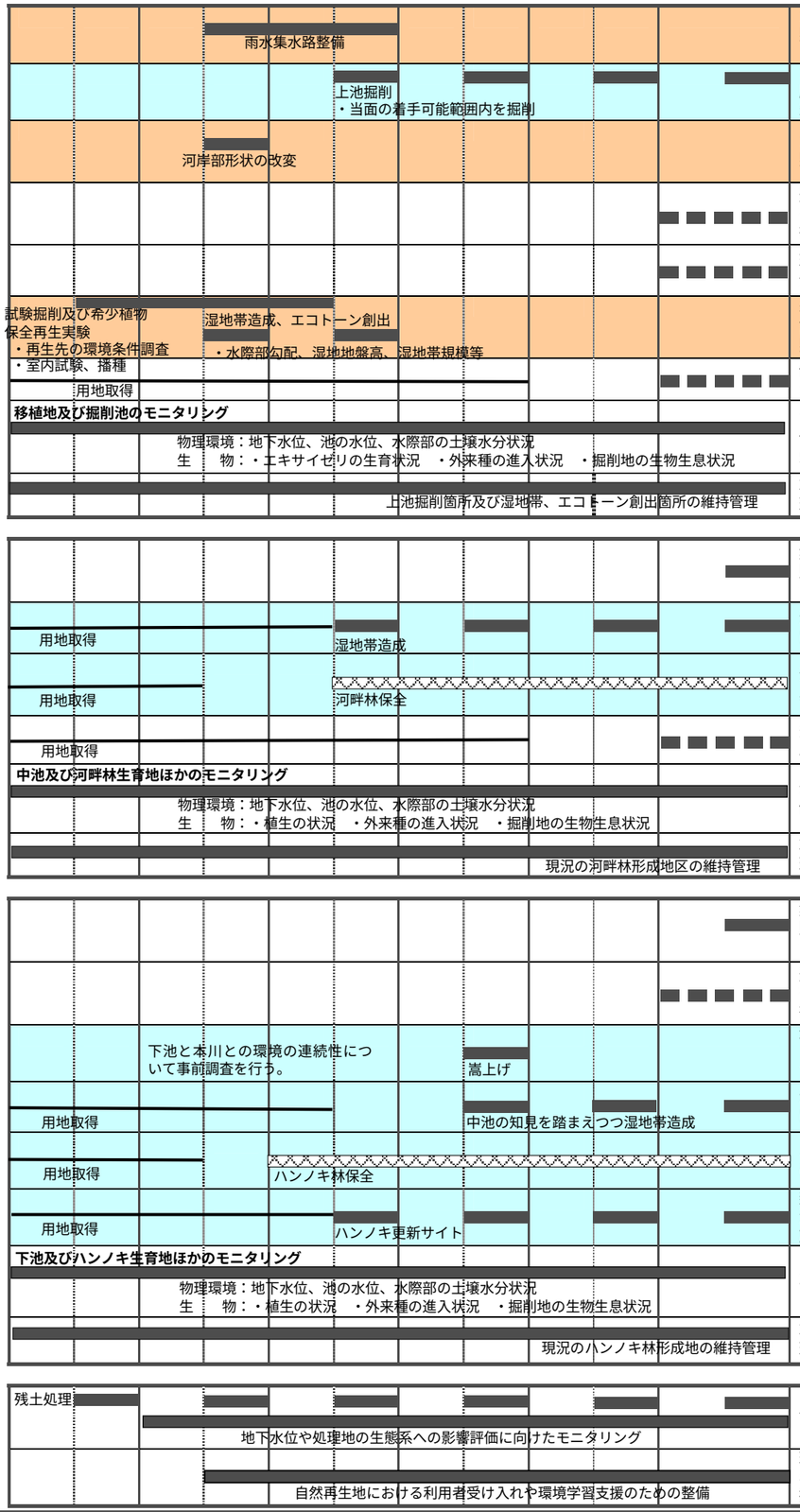
[注1]
資金計画を考慮していません。

[注2]
モニタリングの結果によっては実施時期が変更される場合があります。

B.場所 / No. / C.整備内容

B.場所	No.		C.整備内容		E.備考	区分
上池	1	水確保	雨水の利用（※）	池近傍に雨水集水路を設置し、導水する。	エコトーン創出・保全再生実験の効果確認後、他機関との調整等を検討しつつ、実施する。	Ⅰ期
	2		上池の掘削	水面及び湿地確保のため、上池の掘削を行う。	エコトーンの試験掘削、保全再生実験及びモニタリング結果を踏まえ、着手する。	Ⅱ期
	3		高水時の本川からの導水	本川と上池の本川接続部を掘削し高水時に本川から旧流路への流入頻度を高める。	エコトーン創出・保全再生実験の効果確認後、実施する。	Ⅰ期
	4		池の連結	中池からの水供給と、生物の往来を考え、横堤部分をﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄなどで連結する。	連結時の生態系への影響、物理変化を考慮し、実施有無を含めた検討を行う。	Ⅲ期
	5		市野川の導水検討	市野川からの導水について、必要性の有無も含め検討を行う。	現時点では課題事項が多いため十分な検討を行い判断する。	Ⅲ期
	6	以外	湿地帯の造成・エコトーンの創出	水鳥の利用や湿生植物の生育場再生のため、水際を緩傾斜で掘削してエコトーン化する。	希少種保全再生実験を行うための試験掘削を先行し、モニタリング結果を踏まえて段階的に実施する。	Ⅰ期
	7		旧モトクロス場の湿地化	旧モトクロス場について、湿地帯または池として湿地化する検討を行う。	保全再生実験、試験掘削結果を踏まえて検討し、実施する。	Ⅲ期
	8	その他	モニタリング	整備箇所及び保全箇所の形状、土壌、地下水位等の物理環境及び動植物の保全・再生状況	エキサイゼリ移植地の物理環境変化とエキサイゼリの生育状況に重点を置く。	－
	9		維持管理	保全地区における外来種対策、ゴミ処分等の維持管理について検討する。	項目、頻度、役割分担などの維持管理計画の検討を行う。	－
中池	10	水確保	雨水の利用(周辺の水又は農業用水)	池近傍に雨水集水路を設置し、導水する。また、農業用水の利用も含め検討を行う。	集水路の形状、規模や農業用水を利用する際の課題等について検討しつつ、実施する。	Ⅲ期
	11	水確保以外	湿地帯の造成	水鳥の休息・生息の場となる中ノ島を残し、湿地帯の掘削を行う。	湿地帯規模、形状を検討し、段階的に実施する。	Ⅱ期
	12		河畔林の保全(周辺地域の公有地化と保全管理)	河畔林の保全及び自然地確保のため、民有地を公有地化し、適切な管理を行う。	河畔林保全方針及び保全のための具体策の検討を進め、実施する。	Ⅱ期
	13		旧モトクロス場の湿地化	旧モトクロス場について、湿地帯または池として湿地化する検討を行う。	先行実施する湿地帯造成の結果を踏まえて検討を進め、実施する。	Ⅲ期
	14	その他	モニタリング	整備箇所及び保全箇所の形状、土壌、地下水位等の物理環境及び動植物の保全・再生状況	河畔林形成地の土壌条件や地下水位条件等を把握する。	－
	15		維持管理	保全地区における外来種対策、ゴミ処分等の維持管理について検討する。	項目、頻度、役割分担などの維持管理計画の検討を行う。	－
下池	16	水確保	雨水の利用(周辺の水又は農業用水)	池近傍に雨水集水路を設置し、導水する。また、農業用水の利用も含め検討を行う。	集水路の形状、規模や農業用水を利用する際の課題等について検討しつつ、実施する。	Ⅲ期
	17		池の連結	中池からの水供給と、生物の往来を考え、横堤部分をﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄなどで連結する。	連結時の生態系への影響、物理変化を考慮し、実施有無を含めた検討を行う。	Ⅲ期
	18		下池下流部の嵩上げ	下池下流部の水路床を嵩上げし、水位の上昇を図る	地下水位、水際部植生などをモニタリングしながら嵩上げ高さを設定する。	Ⅱ期
	19	水確保以外	湿地帯の造成	湿地帯周辺にハンノキ発芽適地を確保するための水路網などの整備を行う。	湿地帯規模、形状を検討し、段階的に実施する。	Ⅱ期
	20		ハンノキ林の保全・再生	現存するﾊﾝﾉｷ林を含む周辺地区を公有化し、適切な保全･管理を行っていく。	ハンノキ林保全方針及び保全のための具体策を検討し、実施する。	Ⅱ期
	21		ハンノキ発芽適地の創出	人為的に発芽、生育に適する湿性地を新たに創出する。	新たなハンノキ生育適地の創出方法について検討し、必要な整備を実施する。	Ⅱ期
	22	その他	モニタリング	整備箇所及び保全箇所の形状、土壌、地下水位等の物理環境及び動植物の保全・再生状況	ハンノキ林形成地の土壌条件や地下水位条件等を把握する。	－
	23		維持管理	保全地区における外来種対策、ゴミ処分等の維持管理について検討する。	項目、頻度、役割分担などの維持管理計画の検討を行う。	－
全体	24	その他	治水面での施策 ・調節池計画との調整 ・残土の有効利用	調整池計画との整合、整備により生じた土砂の有効活用などを実施していく。	調節池計画と整合した計画とする。	－
	25		環境学習と安全な利用のための整備	環境学習、利用者の受け入れ等に対応した事業を実施する。	環境学習に寄与するための事業内容を検討し、必要な整備を地域と連携して実施する。	－

D.平成16年度～平成21年度以降



（※）雨水集水路は当面は、素掘りで試験的に掘削し、モニタリングを行う。

Ⅰ期：1～3年　Ⅱ期：3～5年　Ⅲ期：それ以降